

勝つことにこだわり、 優勝に向かって全力で戦う。

湖 INTERVIEW

滋賀レイクスターズ キャプテン

藤原隆充さん

滋賀県初のプロスポーツチーム、
日本プロバスケットボールリーグ・
bjリーグの滋賀レイクスターズで
キャプテンを務める藤原隆充選手は、
2010-2011シーズンの終盤を迎え、
地元の熱いファンの声援をバックに、
一戦一戦を全力で戦っています。



西澤 ●日本プロバスケットボールリーグのbjリーグで、現在、滋賀レイクススターズ(通称レイクス)は、ウエスタン・カンファレンス(西日本の9チームで構成)でプレーオフ進出(上位6チーム)を争っています(2011年2月現在)。今シーズンで3年目を迎え、チームは年々強くなってきていますね。

藤原 ●ええ。チームが好調なのは、一つは非常に能力の高い選手がそろっていることです。ただ、優勝するためには能力だけでなく、チームワークが大事になると思っています。

西澤 ●キャプテンとしてチームを一つにまとめるために、とくに心掛けておられることはありますか。

藤原 ●自分が言ったことに対して責任を持ち、それを行動で示すことですね。例えば一つ一つの練習を大切に、自分が持つ力を出し切る。選手はみんな「試合に勝ちたい、優勝したい」という思いでバスケットをし、そのためには何が必要かを考えていますから、



熱戦を繰り広げる滋賀レイクススターズ。アリーナを埋め尽くしたブースターの応援が選手たちを後押しする。

ブースター(ファン)は元気ですね。昨シーズンはベストブースター賞を受賞されました。

藤原 ●僕は以前、新潟のチームでプレーしていて、新潟のブースターがナンバーワンだと思っていました。ところが滋賀に移籍してブースターの応援を見たら、ポテンシャルは新潟を抜く。今では滋賀のブースターが日本一と胸を張って言えます。

西澤 ●ブースターも私たち企業応援団もレイクスを盛り上げようと一生懸命です。常に選手を力強く後押ししてくれるブースターに、さらに希望されることはありませんか。

藤原 ●普通、ホームゲームで対戦相手がフリースローをするとブースターがブーイングしますよね。それを僕にも向けてほしい(笑)。その方が「絶対にシュートを決めてやる!」という思いになりますから。

西澤 ●ではこれから藤原選手がフリースローをする時はブーイングで(笑)。ところで、今年1月に藤原選手は2人の選手とともに当行のパソナル出張所のトークショーにご出演いただきましたね。

藤原 ●銀行という堅いイメージがあったのですが、アットホームな雰囲気やゲームやプライベートの話で盛り上がりました。

西澤 ●このほかにも県内の学校や企業を訪問したり、親子バスケット教室など、地域密着のコミュニティー活動を

自然に心は通います。

西澤 ●試合は10分、4クォーター制で展開しますが、観戦させていただけると本当にスピードが速い。瞬間、瞬間にプレーがどんどん変わりますね。藤原選手のポジションであるポイントガードについて少しご説明ください。

藤原 ●チームとしてどう戦うかをみんなに伝え、指示を出す。コート上の監督“だ”と思っています。

西澤 ●いわゆる司令塔ですね。ご自身が理想とするプレースタイルはありますか。

藤原 ●試合に出た時に、みんなに安心感を与えられる選手になりたいです。いい局面ならゲームを勝ちにつなげてくれる、悪い局面は打開してくれる、というふうに。

西澤 ●例えば、スリー・ポイント・エリアからシュートを決めると3点入り、一気に試合の流れが変わります。藤原選手は試合会場が盛り上がり、シュートが決まると、吠えるように大声を出されることがありますね。

藤原 ●僕は感情がおもてに出るタイプですから(笑)。でも、あえて声を出す時があります。客観的にゲームを見ているところもあります。

西澤 ●キャプテンとしてチーム全体を常に冷静に見ておられるのでしょうか。観戦して感じたのですが、レイクスの



コミュニティー活動として県内の学校などを訪問。バスケットボール教室で地域の子どもたちとふれあう藤原選手。

熱心にされていますね。

藤原 ●僕の小さい頃はトップレベルの選手にふれあう機会はありませんでした。今の子どもたちには地域に根づいたプロバスケットチームがあり、選手と接する機会が多くなると思います。その分、僕たちは子どもたちの目標となる選手でなければいけませんし、責任を感じますね。

西澤 ●ふれあいを通じてバスケットを始めたという子もおられるようですね。

藤原 ●そうですね。「将来の夢は藤原選手」と新聞に書かれた時はバスケットをしてきてよかったと思いました。

西澤 ●子どもの頃からトップレベルのプレーを見ることは、バスケット人口を増やすことにもつながります。

これまで滋賀にはプロスポーツのチームがなく、レイクスが初めてです。その意味でも

滋賀の熱いブースターは日本一! 子どもたちの目標となる選手でいたい。

滋賀レイクススターズ キャプテン 藤原隆充さん(ふじわら・たかみち)

滋賀初のプロスポーツチームとしてレイクスが担う役割は大きいですね。

滋賀銀行常務取締役 西澤由紀夫



キャプテンとして、ベンチからでもチームを鼓舞する藤原選手。

心の葛藤を乗り越え、チャレンジ精神で滋賀へ。 レイクスの歴史を作るために役立ちたい。



チームが担う役割は大きいですね。
藤原 ● 地域のみなさんに愛され、応援をいただいているプロチームですから、僕自身にできることなら、地域のコミュニティ活動に一つ一つ取り組んでいきます。後はレイクスのスタッフが大きく発展させてくれると思っています。

西澤 ● 藤原選手が新潟から滋賀に來られたのが2008年。移籍が決まった時のお気持ちはいかがでしたか。
藤原 ● プロでプレーする以上、最初から最後まで同じチームにいたいと思っていましたが、坂井信介代表に口説かれました…。レイクスは初年度という

ことでバスケット以外にもすべきことが多いし、正直不安は大きかったです。でも、それにチャレンジしてこそ僕という人間。レイクスの歴史を作ることに役立つのはありがたい。「やるぞー！」という思いが強くなってきました。
西澤 ● レイクスに移籍するには心の葛藤があったわけですね。
藤原 ● 最初の頃は坂井代表から連絡をいただいても「滋賀には行きません」と言っていたんです。でも、ドラフト後に実家の福岡まで挨拶に來られ、言葉だけではなく行動で熱意を見せられて、その気持ちに添えていくことになりました。

Profile ● 藤原隆充

1978年福岡県出身。9歳でバスケットボールをはじめ。小倉南高校を経て、九州産業大学卒業後の2001年、当時日本リーグに所属する新潟アルビレックスBBに入団。2001-02シーズンの新人王に輝き、優勝も経験する。05年、新しくスタートしたbjリーグに新潟が加盟、08年オフのエクспанション・ドラフトにより新規参入した滋賀レイクスターズへ移籍。キャプテンを務める。2009-10シーズンは初のプレーオフ進出に貢献。背番号11。ポジションはポイントガード。身長182cm、体重82kg。

西澤 ● 最後は坂井代表のラブコールが勝ったと(笑)。

藤原 ● そうですね。ただ、お土産にいただいた鮎寿司を初めて見て、これは喜んで食べていいものか…と(笑)。今は食べられるようになりましたが。

西澤 ● 滋賀が誇る伝統的な食品です。ほかに好きな食べ物ありますか。
藤原 ● オフになると近江牛をよく食べます。とても美味しいですね。僕は体重が増えやすいので、シーズン中は魚がメインで、お肉を食べたとしても脂身の少ない部分ぐらい。妻が料理を工夫し、体重のコントロールをしてくれています。

西澤 ● 奥さんの協力のおかげで体調管理ができていますね。
藤原 ● ええ。「いつ引退してもいいし、いつ大きなケガをしてもいいから、好きなだけバスケットをやってください」といつってくれる大きな存在です。
西澤 ● 最高のプースターですね。ところで、偶然、藤原選手が自転車車で走っておられる姿をお見かけしました。

藤原 ● 昨夏のオフ、自転車で琵琶湖を一周しました。

西澤 ● 私が見かけたのは近江八幡から大津に車を走らせていた時で、バスケットボール入りのカバンを背負われていましたよ。

藤原 ● 実はよく自転車でウロウロしています(笑)。

西澤 ● そもそも藤原選手がバスケットを始められたきっかけは何ですか。
藤原 ● 父がスポーツ万能で、何をやっても勝てなかったんです。鼻をあかしてやろうと、父が唯一やっていなかったバスケットを小学3年生から始めました。バスケットには攻めと守りの切り替えがあり、得点が多く入るところが面白いのです。

西澤 ● その後、高校、大学で活躍され、プロリーグへ。プロになるには強い決意が必要だったでしょう。
藤原 ● バスケットがしたいという思いに溢れていましたが、当時の日本にプロのチームはありませんでした。大学の韓国人の先生とプロリーグがある韓

国でプレーする話を進めていた頃、当時日本リーグに所属する新潟アルビレックスBBでプロ契約の選手

を選考するトライアウトがあると連絡を受け、最後の日本の思い出にと受けたら運よくOKが出たんです。

西澤 ● 20年以上バスケットを続けられ、いよいよベテランの領域に來られました。プレーヤーとしての目標、その先の展望を聞かせてください。
藤原 ● 現役の間は勝つことと、優勝にこだわっていききたい。引退後はバスケット関連の仕事に携わるのも一つの方法ですし、人と接することが好きなので新しいことにもチャレンジしたいですね。

西澤 ● bjリーグは後半戦の最後の山場を迎え、チームとしてはプレーオフ進出が期待されます。最後にプースターにメッセージをお願いします。
藤原 ● 僕たちの目標は優勝です。連敗しても下を向く必要はないし、プースターのみんなも心配することはありません。僕たちは常に全力で優勝に向かって戦っていきます。これからもレイクスに付いて来てくださーい!

西澤 ● 私もまた応援に行きます。くれぐれもおケガをなさらないように、優勝を目指して頑張ってください。本日はありがとうございます。